

中学生の喫煙行動とタバコをめぐる社会環境の認識との関連性

B98-4502 阿部 麗香 (指導教官 朝倉 隆司)

1. 目的

近年、タバコ会社のテレビCM規制や分煙対策のようにタバコをめぐる社会環境は、変化してきている。そこで本研究は、タバコをめぐる社会環境が中学生の喫煙行動にどのような影響を及ぼしているか検討した。

2. 研究方法

- 1) 調査対象 新潟県の公立中学校1、2、3年生 614名 (男子323名、女子291名)
- 2) 調査方法 質問紙調査法
- 3) 調査内容 ①基本的属性②家庭内喫煙③友人喫煙④喫煙行動⑤タバコをめぐる社会環境(「人」「場所」「メディア」「売買」「規制」「社会環境」)⑥自由回答
- 4) 分析方法 SPSSを用いて、全ての設問の回答に対して単純集計を行った後、カイ2乗検定によって、各調査内容と喫煙行動との関連性を検討した。

3. 結果と考察

①喫煙行動の実態

学年別で有意な差が見られたものは喫煙経験であり、経験ありと回答した者は1年生4.9%、2年生12.4%、3年生12.4%であった。(p<0.05)

性別では喫煙経験と喫煙意思に差がみられた。喫煙経験ありと回答した男子は13.1%、女子は6.3%であった。(p<0.01)喫煙意思では、きっと喫煙していると回答した男子は19.8%、女子10.6%でいずれも男子のほうが高い数値を示している。

②タバコをめぐる社会環境について

本研究では、タバコをめぐる環境を「人」「場所」「メディア」「売買」「規制」「社会環境」から捉えた。まず、「人」に関する環境でよく目にとると回答した者が多かった項目は、歩きながら吸う人(39.6%)、「場所」では喫煙コーナーでの喫煙(29.5%)、「メディア」では映画の喫煙(17.7%)が最も多かった。「売買」に関する項目で知っているという回答した者が多かった項目は、自販機販売の98.7%で、「規制」では未成年者喫煙禁止法(88.6%)、「社会環境」は禁煙ガム(56.9%)であ

った。

③タバコをめぐる社会環境と喫煙行動間の関連

喫煙行動と有意な関連が認められたタバコをめぐる社会環境要因は、喫煙経験では22項目、喫煙意思で11項目、健康影響の認知では3項目、社会態度は17項目であった。喫煙経験や喫煙意思と関連がみられた要因の代表的なものを図1、図2に示した。タバコをめぐる社会環境に暴露されている者ほど、喫煙経験者の割合が高くなっている。また、「売買」「規制」「社会環境」で関連があった代表的な項目は自販機の時間規制、分煙対策であった。それらを認知している者のうち、23.2%、18.3%が将来喫煙意思ありと回答しており、認知していない者と比べ高かった(順に9.2%、12.4%)。

図1 喫煙経験ありと目にする頻度

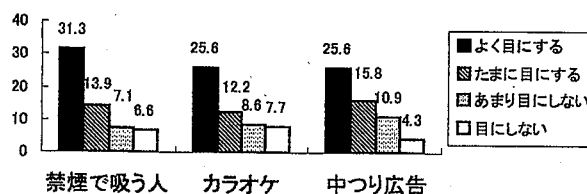
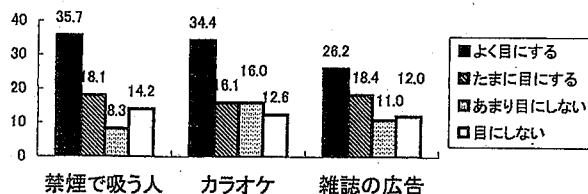


図2 喫煙意思ありと目にする頻度



4. 結論

中学生はいろいろなところでタバコをめぐる社会環境に暴露されており、それらが喫煙の経験や意思といった喫煙行動に影響を与えていることが、本研究から明らかになった。現在、様々な分煙、禁煙対策が行われているが、それらはまだ不十分であり、これからより一層タバコをめぐる社会環境の改善に取り組んでいく必要がある。

5. 参考文献

「青少年とタバコ等に関する調査研究報告書」
平成13年1月総務庁青少年対策